

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 043	提案機関名 (一社) 神奈川県畜産会
要望問題名 県産家畜ふん堆肥の利活用を促進するための実証試験	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 畜産を取り巻く情勢が厳しいなかでも「一番困っているのは堆肥が滞っていること」との声が畜種を問わず多くの生産者から出ている。 畜産農家が耕種農家のニーズに応じたい肥を生産し利用を促進するためには、実証試験により効果を検証し生産現場に還元することが、たい肥の生産方法の改善等への大きな後押しになると考えられることから、堆肥の畜種・性状・形状・品質、土壌・作物との適合性など、県産家畜ふん堆肥の利活用の促進につながる実証試験をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター 畜産技術センター	担当部所	生産環境部 三浦半島地区事務所 企画指導部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 畜産農家や耕種農家のニーズに応じたい肥を生産し栽培に利用するまでの個別技術は各種マニュアルで提案されています。また、国等によるたい肥の利用実態を調査したアンケートから利用が進まない問題点も明らかになっています。現在、県畜産課が三浦半島地域を対象にこうした問題点を改善して耕畜連携を促進するための事業を行っており、今後、三浦半島地域以外でも展開していく予定ですので、当該事業に引き続き農業技術センター、畜産技術センターが協力していきます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			